

書評

Journal of Occupational Science(2018) 第 25 卷, 第 1 号

Journal of Occupational Science の第 25 卷, 第 1 号では, 移民の作業とウェルビーイングに関する特集である。今回の特集では, 自発的に移民した人々の経験に焦点を当てた 5 論文と, 非自発的である亡命希望者の制約された作業を取りあげた 2 論文が掲載されている。ここでは前者の 5 論文について紹介する。

Rivas-Quarneti, Movilla-Fernández, および Magalhães (2018) は, ラテンアメリカからスペインへ移住した 30-40 歳代 6 人の女性の日々の作業経験を分析した。Kielsgaard, Kristensen, および Nielsen (2018) は, イラクやシリアから夫と離れ, デンマークへ移民した 30 歳代の母親の作業を探索した。いずれも社会経済的危機の状況で, 移民となった女性たちが, 階級, ジェンダー, 民族などを理由に作業機会を脅かされている状況と健康を維持するために用いられた作業を見出していた。

Huot と Veronis (2018) は, 少数派の人々のコミュニティ空間 (学校, 礼拝所, コミュニティセンターなど) の役割を調査した。英語圏の都市でフランス語を話す移民や難民を支援するコミュニティ空間が, 言語的少数派であるメンバーの作業参加を可能にし, 他者との話し合いや共有を通して, より広いソーシャルネットワークの構築に貢献していることを見出した。少数派の人々の社会的交流を支援するためには, コミュニティ空間が参加者の人種, 民族的多様性を受け入れることが重要であることが示された。

Wright-St Clair, Nayar, Kim, Wang, Sodhi, Chung, Suchdev, および Hu (2018) は, 中年期以降にニュージーランドに移り住んだ高齢のアジア人移民のコミュニティへの参加が, どのように主観的健康感に影響するのかを調査した。また, Arola, Dellenborg, and Hägglom-Kronlöf (2018) は, フィンランドからスウェーデンへの高齢移民の健康感を作業的見方で探索した。両研究は, 高齢者の移民の健康感には, 同郷同士のつながりや生活状況についての共感と所属感が重要であることを見出した。

本特集は, 移り住む場所や年代, 性別に関わらず, 移民生活が作業的健康へ影響を及ぼすこと示している。移民となる理由に関わらず, 馴染みのない文化的規範, 行動, 期待のある国に移り住むことは健康感に多くの脅威をもたらす(Guptaa & Hocking, 2018)と指摘されているが, 本特集は, 加えて社会経済的な状況, 言

語の違いなども大きく作業的健康に影響することを示している。また年代に関わらず移民先におけるコミュニティなどの人との繋がりが、作業参加と健康を促すことを示した。Huot ら (2018) の指摘した、状況を共有する人々だけでなく、異なる人々、つまり、多様性のある少数派からなる集団がメンバーの健康を促進するという視点は興味深く、作業参加を考える上での新たな視点になったと考える。

西方浩一 (文京学院大学)

- Arola, L. A., Dellenborg, L., & Hägglom-Kronlöf, G. (2018). Occupational perspective of health among persons ageing in the context of migration. *Journal of Occupational Science*, 25(1), 65–75. doi:10.1080/14427591.2017.1368411
- Gupta, J. & Hocking, C. (2018). Special Issue: Occupation, Well-being and Immigration, *Journal of Occupational Science*, 25(1), 1-3, doi: 10.1080/14427591.2018.1446243
- Huot, S., & Veronis, L. (2018). Examining the role of minority community spaces for enabling migrants' performance of intersectional identities through occupation. *Journal of Occupational Science*, 25(1), 37–50. doi:10.1080/14427591.2017.1379427
- Kielsgaard, K., Kristensen, H. K., & Nielsen, D. S. (2018). Everyday life and occupational deprivation in single migrant mothers living in Denmark. *Journal of Occupational Science*, 25(1), 19–36. doi:10.1080/14427591.2018.1445659
- Rivas-Quarneti, N., Movilla-Fernández, M-J., & Magalhães, L. (2018). Immigrant women's occupational struggles during the socioeconomic crisis in Spain: Broadening occupational justice conceptualization. *Journal of Occupational Science*, 25(1), 6–18. doi:10.1080/14427591.2017.1366355
- Wright-St Clair, V. A., Nayar, S., Kim, H., Wang, S. M., Sodhi, S. K., Chung, A., Suchdey, J., & Hu, C. (2018). Late-life Asian immigrants managing wellness through contributing to socially embedded networks. *Journal of Occupational Science*, 25(1), 51–64. doi:10.1080/14427591.2017.1370607

翻訳協力者：

坂上真理 (札幌医科大学)

西野歩 (煌めく返り花プロジェクト)

村上典子 (うるまの虹)

中嶋克行（YIC リハビリテーション大学校）

馬場博規（磐田市立総合病院）

小田原悦子（自宅所属）

高木信也（紘仁病院）

西方浩一（文京学院大学）

鹿田正隆（常葉大学）

中村拓人（神奈川県立保健福祉大学）